

## 健康管理センターの活動報告<sup>†</sup>

松井 克典\* 齋藤 早紀子\* 長谷川 尚子\* 青木 美幸\*

(0000年00月00日受理)

An Activity Report of the Health and Medical Support Center

Katsunori MATSUI, Sakiko SAITO, Naoko HASEGAWA, Miyuki AOKI

(Received □□ 00,0000)

### 1 はじめに（設置の目的）

日本工業大学健康管理センター(以下本センターとする)は、学生及び教職員の健康の保持増進を目的に、健康管理や健康教育を行うために設置されている。これらの取り組みを通して安心・安全な大学づくりを目指し日々活動している(図1)。



図1 健康管理センター正面

### 2 健康管理センターの概要

本センターでは、前述の目的を達成するために下記の活動を行っている。

#### 2.1 日常の活動

学生及び教職員の健康相談への対応・健康指導等を通して、疾病の予防、早期発見に積極的に取り組んでいる。また、定期健康診断の実施と健康診断証明書の発行を行っている。一般的な健康指導に加え、内科医師が週一回来学し、健康相談・内科再診(甲状腺疾患・心疾患など)・長時間労働者や高ストレス者の面接などを行っている。

\*健康管理センター

また、大学内で起こる怪我や急病の際の応急処置と消防(救急)や医療機関への連絡・連携・紹介等を行っている。

#### 2.2 定期健康診断

学生の定期健康診断は、在学生については、年度末の3月下旬に、また新入生については年度当初の4月に一斉に実施している。内容は聴打診・胸部レントゲンデジタル撮影・心電図検査・血圧測定・尿検査・形態測定・腹囲測定・視力検査・聴力検査である。

健診後は、センターで再検査(尿・血圧)を行い、高血圧や肥満のある学生に対しては、生活指導(運動・食事指導)を実施している。

教職員の定期健康診断は、毎年8月下旬に、上記の学生健康診断項目に加えて胃検査・血液検査・便潜血検査を実施している。また電離放射線・特定化学物質・有機溶剤使用者に対しては、年2回、特殊健康診断を実施している。

本センター入り口付近には、血圧計・体組成計を設置している。いつでも手軽に計測できる環境を整えることで、年一回の健康診断だけでなく、継続した自主的な健康管理に役立てて頂きたいと考えている。

#### 2.3 学内での健康保持・増進の啓発・啓もう活動

##### 1) 熱中症への取り組み

2019年に体育館・グラウンド日なた・グラウンド日影の3か所に暑さ指数(WBGT)計測のためのWBGT計を設置し(図2)、24時間365日の気温とWBGTの計測を行っている。また、健康管理センター窓口を含め学内4か所にモニターを設置し、気温、暑さ指数(WBGT)の実況値を公開し、熱中症の注意喚起を行っている。

本センター員は学内の「熱中症予防対策委員」を兼ねており、学内での熱中症への注意啓発活動、熱中症予防講習会の実施、予防啓発動画の作成等を行っている。こうした取り組みは、学生が主体的に熱中症予防行動をとれるよう

なることを目的としており、特に夏季休暇中に活動する学生団体には、「高温下での一日の活動計画・休息計画」の作成を指導している。また、夏季シーズンが終わった後には、学内の熱中症発生状況を公表し、当該年度の振り返りを行うとともに、翌年度のより良い取り組みを模索している。



図2 グランド日なたに設置のWBGT計

## 2) トレーニングルーム利用者のサポート

本センターでは、学生の競技スポーツの技術指導や組織づくり指導をはじめとし、一般学生の体力に応じた健康づくりに取り組んでいる。

平素は学生支援課と連携しながら、体育館2階のトレーニングルームをはじめスポーツ施設全般の管理を行っている(図3)。また、トレーニングルーム利用者に向け、使用のルールやマナー、安全管理の教育を含めた事前講習会と修了証の発行を年間通じて行っている。



図3 体育館2階トレーニングルーム

## 3) 救命救急講習会

本センターでは、AEDの利用可能者数の増進を目指して、毎年1回AED講習会を実施している。本センターが主体とな

って、外部に講師を依頼し、講義のみならず実際の状況を想定した実演および体験を通して利用方法を学ぶものとなっている。

## 4) インフルエンザ予防接種

毎年11月にインフルエンザ予防接種を学生・教職員に向け行っている。これは学内での感染を防止するため、また罹患した場合の重症化を防ぐためである。接種については、希望者のみ、有料としている。

## 3 2022年度の活動報告と状況

### 3.1 学生定期健康診断

学生定期健康診断は、2022年3月29日(火)～31日(木)及び4月8日(金)に5号館を使用し行った。受診者数は表1のとおりである。

1年生は学校保健安全法で胸部レントゲン撮影が義務になっており、上記の日程で受診できなかった場合は個別対応を行っている。また、学生定期健康診断を受診した学生に限り、就職活動や進学の際に必要な健康診断証明書を発行している。

	1年生	2年生	3年生	4年生	博士前期	博士後期	合計
受診者数	1,158	850	935	872	92	4	3,911

表1 2022年度学生定期健康診断受診者数

### 3.2 教職員定期健康診断

教職員定期健康診断は、2022年8月24日(水)に5号館を使用し行った。受診者数と総合判定のそれぞれの結果の人数は表2のとおりである。この日程で受診できなかった教職員には、人間ドックなどの受診勧奨を行っている。

	総合判定	受診者数
A	異常なし	22
B	略正常	22
C	要経過	36
D	要再検	149
	合計	229

表2 教職員定期健康診断受診者数と総合判定

### 3.3 来室状況

本センターでは学生・教職員の体調不良、健康相談等に日々対応してきた。主な項目ごとの延べ来室者数を表3に示す(数値は2023年2月末日まで)。

項目	学生 来室人数	教職員 来室人数
内科疾患	4,074	324
外科疾患	177	15
眼科疾患	8	2
耳鼻科疾患	9	1
皮膚科疾患	24	6
婦人科疾患	15	0
歯科疾患	3	0
泌尿科疾患	7	3
健康相談	90	32
精神相談	50	2
健康診断フォローアップ	63	2
校医による診察	21	21
その他	301	37
合計	4,842	445

表3 健康管理センターへの来室状況とその項目

### 3.4 インフルエンザ予防接種

インフルエンザ予防接種は、2022年11月17日(木)に5号館で行った。これは、学生・教職員の希望者のみで有料の予防接種とし、155人が接種した。

### 3.5 ウェイトトレーニングルームの運営

体育館2階のウェイトトレーニングルームについては、新型コロナウイルス感染防止対策で学生支援課と連携し、予約制の使用とした。

1限(9:00~10:40)、2限(10:50~12:30)、昼休み(12:30~13:20)、3限(13:20~15:00)、4限(15:10~16:50)の1日5枠とし、使用可能人数を1枠当たり最大5人とした。使用する場合には学生支援課で予約を取り、所定の指導を受け、感染防止対策を実施しながらの使用とさせた。

また、体育館内が高湿となる時期(2022年度は7月26日~10月27日)には、ウェイトトレーニングルームは閉鎖し、一部の機器を冷房使用可能な教室へ移動して、涼しい場所での簡易トレーニング室(2-181教室)を設けた。

### 3.6 トレーニング講習会

本学学生・教職員向けトレーニング講習会を2022年10月6日(木)に実施した。講師にJOC(日本オリンピック委員会)所属の館崎雅晴トレーナーを招き、トレーニング前の身体の状態の確認からはじめ、効率的なトレーニング方法や栄養、休養など健康や体力増強に有用な話を伺うとともに、参加者も一緒に体を動かし実践した。体育館アリーナで3限(13:20~15:00)と4限(15:10~16:40)の2部構成(内容は同一)で行い、35名が参加した。事後アンケートからは「トレーニングのやり方がわかった」「体を動かしてすっきりした」といった声が寄せられ、改めて自分の身体や健康づくりの大切さに気づく機会ととなったようである(図4)。



図4 トレーニング講習会の模様

### 3.7 特別イベント(パラアスリート講演会)

2022年11月17日(木)に埼玉県と本センターの共催で、埼玉ゆかりのパラアスリートによる体験型講演会を実施した。当日は埼玉県のブラインドサッカー選手、加藤健人選手にお越しいただき、対話を交えた講演とブラインドサッカー体験を行った。

「多様性とは」「視覚障害者とは」といったお題に、参加者たちはグループワークで自身の考えを深め、またブラインドサッカー体験では、視覚を遮断された状態での他者との距離感やボール操作の難しさを経験した。

3限(13:20~15:00)の時間に体育館アリーナで行い、20名の学生や教職員の皆さんが参加した(図5)。



図5 パラアスリートによる体験型講演会の模様

### 3.8 ウォーキングチャレンジ2022

2022年11月の1ヶ月間にウォーキングチャレンジ2022を行った。ウォーキングチャレンジとはヘルシーキャンパス京都と全国14大学の主催及び公益社団法人全国大学保健管理協会及び京都市の共催で行ったウォーキング啓発イベントであり、本センターでは今年度初めての参加となった。

2022年度は全国の大学や自治体など27団体が参加した。参加者は、個人もしくはグループでの参加が可能であり、本センターでは、10月からポータルサイトを通じた周知および作成したチラシの啓示によって、参加者を募るための啓発活動を行った。

本学からは学生と教職員合わせ、120名(個人63名、グループ57名)が参加した。参加者は専用の歩数計測アプリケーションもしくは手入力でWEB上に歩数を記録し、全国の参加者と競い合った。本学の参加者で個人1位の方の一



日平均歩数は17,775歩であり、中には1日50,000歩以上歩いている方もいた本学の全参加者の一日平均歩数は7,425歩で、参加27団体中10位という成績だった。

本センターでは12月14日(水)、5号館1階のスケューデントプラザにて表彰式を行い、本学の参加者内で個人とグループのベスト10に入った皆様に、クオカードなどの賞品を授与し、功績を称えた。

### 3.9 AED 使用講習会

2022年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を懸念し、AED講習会の実施は見送られた。

### 3.10 熱中症予防対策の取り組み

本学熱中症予防対策委員会で学生団体向け熱中症予防講習会を2022年5月23日(月)17:00より5-203教室で行った。建築学科三坂教授(同委員会副委員長)とともに本センターも講義を行った。また、同内容を伝える動画を作成し、日本工大サポータルを通じ学生や教職員に啓発した。

また、夏季に活動する諸団体に熱中症対策を盛り込んだ活動計画を提出させ、指導し、高温下での活動を認めた。

2022年度の本学内の月別熱中症発生件数は19件(図6)であり、罹患者の属性は図7のとおりである(この中の高校生とはオープンキャンパスに参加中の高校生、業者とは本学内で作業していた業者のことである)。

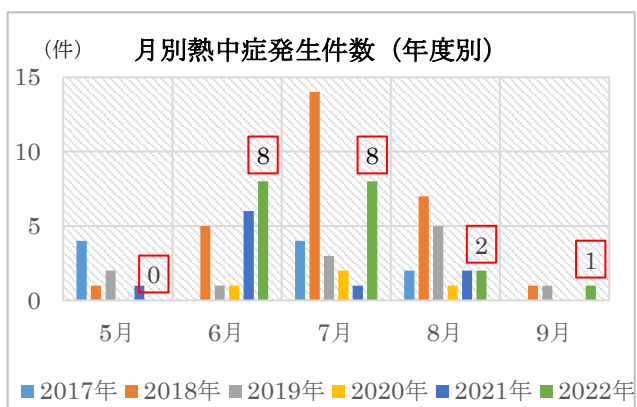


図6 月別熱中症発生件数の推移(数値は2022年度)

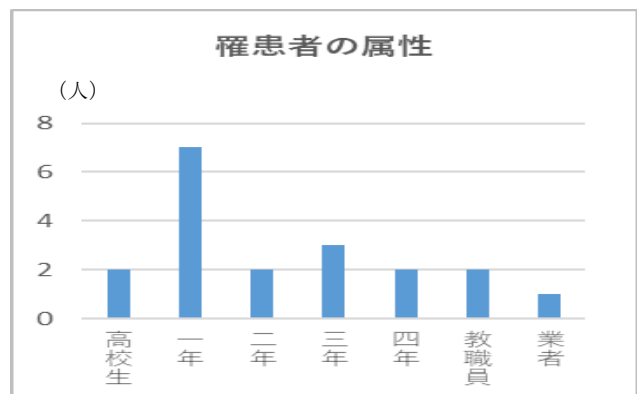


図7 2022年度の熱中症罹患者の属性

### 3.11 新型コロナウイルス感染症に対する対応

新型コロナウイルスに罹患した場合や濃厚接触者に該当した場合などの対応フローチャートを作成した。感染者数の急増により、保健所や自治体の対応が逼迫した際は、医療機関の紹介や自宅療養期間、自宅待機期間の登校を禁止した。また、陽性者から聞き取りを行い、濃厚接触者の登校も禁止し、学内の感染防止に努めた。学内でクラスターは発生の報告はなかった。

また、新型コロナワクチン予防接種の啓発活動や後遺症外来の紹介なども行った。

2022年度中の新型コロナウイルス感染症に関する相談件数と陽性者数を表4に示す。

		4~9月	10~3月	合計
学生	対応人数	1,717	2,141	3,858
	陽性者数	272	397	669
教職員	対応人数	162	118	280
	陽性者数	38	36	74
MOT	対応人数	18	12	30
	陽性者数	9	8	17
NIT.C	対応人数	10	6	16
	陽性者数	6	6	12

表4 新型コロナウイルス感染症に関する相談件数と陽性者数

## 4 おわりに(今後の展望)

2020年度直前より新型コロナウイルス感染症拡大防止による対応で、この3年間は本センターの業務は多忙となった。第8波が収束に向かった2023年1月ごろからは、本学の感染者数も幾分落ち着いてきたものの依然予断を許さない状況が続いている。そのような中、政府より2023年5月以降、現在の2類感染症から5類感染症への移行が発表された。学内での活動は、これまでマスクの着用や3密(密集、密接、密閉)を回避する啓発活動を行ってきたが、今後も引き続き政府や厚生労働省の施策や社会情勢を鑑み、学生支援部・課等と連携を取りながら学生や教職員の健康の保持増進活動を進めていく。

2022年度からセンター員が4名となり、活動が忙しくなっているが、引き続き力を合わせて勤務を遂行する。今後も万人に共通の課題である健康を追求し、大学に関わる全ての方が健康で安心・安全に生き生きと活動できる環境づくりに努め、さらには健康寿命の延伸に寄与できる活動を創り出したい。

